

# 隨泉寺寺報

平成17年(2005年)7月号 第419号

082-892-0217 <http://tetunari@ms1.megaegg.ne.jp>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

安居会法座

講師 正樂寺住職 原田有浄師講題

「寿限無 ジュゲム・・・」

『一、【他力の願行をひさしく身にたまちながら、よしなき自力の執心にほだされて、むなしく流転しけるなり】と候ふを、え存ぜず候ふよし申し上げ候ふところに、仰せに、ききわけてえ信ぜぬものことなりと仰せられ候ひき。』

蓮如上人御一代記聞書

【他力の願行が久しくわが身に具わっていながら、つまらない自力のとらわれ心にくくられて、むなしく苦悩に流転してきた事である】と申し上げたところ、蓮如上人は、それは本願や名号のいわれを聞き分けただけで、わがためとよく信受できていないすがたであると仰せられた。

## 7月の法座予定

7月10日.....掃除 井原

7月14日昼席午後1時より.....安居会法座

7月14日夜席午後7時半より.....出張法座 望ヶ丘集会所

7月15日朝席午前10時より.....65歳以上の集い おとき

7月15日昼席午後1時より.....安居会法座

7月23日午後5時より.....ビアガーデン

7月27日～28日.....少年少女の集い 一泊研修会

7月28日.....少年少女の集い 一日研修会

8月 2日午後6時より.....門信徒会本部役員会

## 65才以上の集い 7月15日(金)午前10時～

7月15日に例年のように65歳以上の集いを開催いたします。今年から名前を変えようという話もありましたが、続けてきた法座だから、なじみがあって良いという意見や、若い婦人や主婦の集いがあるのだから、その上の法座もあって良いという考えもあり、例年通りの名称となりました。とは言いながら、どなたでも結構ですから誘い合わせてお参り下さい。

## 少年少女の集い 一泊研修会(小学4年～6年)

### 7月27日(水)～28日(木) 日にちを変更

例年の通り7月27日(水)～28日(木)と少年少女一泊研修会を開催いたします。先の募集要項では、7月28日～29日の予定でしたが、29日が小学校が全校登校日という事で、日にちを変えて欲しいと言う要望が、多数ありましたので、日程を変更いたします。夏休みの2日間ですが、楽しい思い出が出来ればと思います。今年も出来るだけ楽しい企画を考えています。友達を誘ってたくさん参加してください。

## 少年少女の集い 一日研修会 (小学1年～3年)

### 7月28日(木) 午前9時より 日にちを変更

7月28日(木)少年少女の集い1日研修会を開催します。上記の一泊研修会と同様に、先日の募集要項は7月29日でしたが、全校登校日なので参加が出来ないようです。日にちを変更いたします。朝から昼過ぎまでの半日ですが4年生～6年生の人と一緒に楽しい一日が過ごせたらと考えています。

## 隨泉寺ビアガーデン7月23日(土)午後5時～

今年もビアガーデンを開催します。去年は80名参加してくださり、20リットルのなまびーるを3本と10リットルを1本空けました。今年は100名の参加と100リットルを目標にしています？今年は空梅雨のようですが、蒸し暑さは例年以上です。ビールでも飲んで暑い夏を飲み干しましょう。普段お寺におまいりしていないので参加しづらいという人がありますが、そういう人こそお待ちしております。お酒に釣られてお寺に来てください。野菜や果物があれば協力して下さい。

## 御礼

永代経懇志	金 参拾萬円	土橋 一夫殿 故	土橋 陽一様	特別永代経志として
永代経懇志	金 拾萬円	佐々木良江殿 故	佐々木和仁様	特別永代経志として
永代経懇志	金 五萬円	森田 良子殿 故	森田 春三様	特別永代経志として

## 御礼

門信徒会へ	金 一封	土橋 一夫殿 故	土橋 陽一様	香典返しとして
	金 一封	佐々木良江殿 故	佐々木和仁様	香典返しとして
	金 一封	平原 正子殿 故	平原 ヒデ様	香典返しとして

# 7月

## 子どもたちにただひとつ遺したいもの それはお念仏の光とお育て

東井 義雄

お百姓さんのことばに「下農は雑草をつくり、中農は作物を作り、上農は土をつくる」というのがあります。いいお百姓さんは、いい土をつくることによって、作物がひとりでにいい作物に育たずにおれなくすと聞いています。

きて、幼い子どもの教育は、子どもを育てる土である家庭を、どんな、ふんい気の家にするかということが、一番大きな問題であるようです。

ある問題少年の施設の先生が「こんなところに収容されている少年でも、お母さんのお乳をいただいて育った少年、昔話を聞かせていただいて育った少年、子守り歌を聞かせていただいて育った少年は、もとへ戻すことができる」とおっしゃったのが思い出せます。



私の勤めていた学校に庄ちゃんという子が入学してきました。たくましくせに、明るくて心のやさしいほんとうにいい子でした。職員室でもどうしたらあんな子が育つのだろうかとよく話題になっていました。庄ちゃんが五年になり、私が担任することになり、彼の日記を見て「これだ!」と思いました。庄ちゃんの日記を紹介させていただきます。

おじいちゃんはいつでもおねんぶつをととなえておんなる。でも足がわるいので、きょうもまたぼくがおじいちゃんのかわりにお寺にまいっておせっきょうを聞いてきた。おじいちゃんは今もものすごく喜ばれた。お前が聞かせてくれるなんて夢にも思わんことだった」といって喜ばれた。ぼくもうれしくなってきた。

うちではあした敬老会だ。みんなでごちそうをつくって、おじいちゃん おばあちゃんにおれいをいうことにきまった。ごちそうといってもお金のかかるごちそうではない。

お母ちゃんが講習でツカダ先生から習ってきた野菜のごちそうだ。

おじいちゃんは、いつもごはんを食べるとき、ほとけさまをおがむのとおなじようにいていねいにおがみなる。ぼくは何も思わんとたべる。おじいちゃんはおはんでもおがんでたべなる。えらいおじいちゃんだ。

きょうは、夕ごはんのとき、家の者みんなが毎日するしごとをきめた。

ぼくのはしごとは雨戸をしめたりあけたりするしごとにきまった。ごはんが終ると、おばあちゃんが「雨戸屋さんのんます」といいなはった。ぼくは「ヘイ」といって雨戸をしめにいった。きれいな星が、空いっぱいに出ていた。

こういうふんい気の中では、どんな子もいい子にならずにおれなくなってくるのです。

如来さまはどうか一刻も早く自分のあきましい姿に気づいてくれよと、光を送り続けられていらっしやいます。だから、それを感受できるような、お念仏のお育てがなければなりません。県立盲学校の全盲の六年生の子のことばを思い出します。「見えんことは不自由やけど、不幸とは思わへん。先生、不自由と不幸はちがうんやね」というのです。光の見えない全盲の人生の中で、この子はちゃんと、光を仰いでいます。

子や孫に、お念仏の光さえ残すことが出来れば・・・と考えるこの頃です。

### 蓮の花の咲く季節となりました。

畑賀の品秀寺にお参りしたら、庭にある鉢の睡蓮の花が咲いていました。去年も綺麗なはなだなあと思っていましたが、今年も見事な花が咲いていました。蓮(はす)は、朝日を受けて花開き、午後には花を閉じ、数日開閉を繰(く)り返(かえ)した後、散っていくといわれます。また蓮の果実は千年を経過していても、泥の中で発芽させることができるといわれています。事実、大賀(おおが)一郎博士は二千年前の弥生(やよい)時代の地層から蓮の実を発見し、その実を発芽、開花させたことでよく知られています。



蓮の花は濁水(だくすい)のなかにもりながらも決して染まらず、美しく咲きいずる蓮の華(はな)。それは、煩惱(ぼんのう)の濁(にご)りの世にあり、限りある無常のいのちを生きる身でありながら、有為転変(ういてんぺん)のこの世を場としてはたらく誓願のおちからによって、限りなき常住無為(じょうじゅうむい)の涅槃(ねはん)界にいたるべき尊き念仏の人となる、という事柄をまさに象徴的に表現しています。